

「国際協力（稲作指導）の40年 東南アジア(12年)・アフリカ(28年)」 JICA稲作上級技術アドバイザー 坪井 達史 氏



イネを見たことがない、稲作経験がない地域にネリカ米を普及することは、困難を極めました。それができたのは、常に**農家に向けて仕事**をしてきたからだと思います。

「何とかなる」と恐れず、地域の中に飛び込み、文化の違いを感謝に変えていきました。

JICA稲作上級技術アドバイザー
坪井 達史 氏

●塾生の声

- ・坪井氏のネリカ米普及の話をお聞きして、こだわりを持って仕事をする事、信念を曲げずに仕事をする事、後進の若者に夢を持たせることが他者と協働することにつながると強く感じました。
- ・アフリカなどの貧困・飢餓を救うには、ただ物資の支援をするだけでなく、現地の人と協議し、何を求めているのかを知ったうえで、協働してその課題に取り組むことの大切さを坪井さんから教えていただきました。
- ・信頼の基礎となる人と人とのつながりの構築が大切であり、この激動の時代を生きていく子どもたちに、我々教師ができることとは、「想定外を生き抜く人材」の育成であることだと自覚することができました。

明確なねらいのもと各回の研修が実施されます

第3回のテーマは「協働」です

【ワークショップ】
「貿易ゲーム」

JICA九州 国際協力推進員 鬼丸 武士 氏
戸崎 千尋 氏



●塾生の声

- ・地球という限られた資源の中で、他国と共存していくためには「競争」を軸に考えるだけでは難しいことが分かりました。
- ・「協働」とは、同じ目的に向かって、互いに役割分担をし、それぞれの強みを生かして実行に移すことであることを実感できました。
- ・協働するためには、丁寧な現状分析をし、相手のニーズや価値観などを対話しながら掘り下げていくと同時に、自分の考えとの折り合いをどのようにつけていくかが必要であると感じました。